





工芸技術(陶芸) 備前焼

|        |  |
|--------|--|
| 指定区分   | 国指定重要無形文化財   |
| 読みかた   | こうげいぎじゅつ とうげい びぜんやき  |
| 所在地    | その他  |
| 指定年月日  | 平成16年9月2日  |
| 解説     | 備前焼は、現在の備前市伊部(いんべ)一帯を中心に、平安時代末頃から今日に至るまで伝えられてきた伝統的な陶芸技法である。備前焼は、釉薬を用いない焼き締めによる焼成方法に特色があり、その陶土は、室町時代末期以降、この地方特有の鉄分の多い、可塑性に富む田土(たつち)が主な原料として使われるようになった。中世では壺、かめ、すり鉢などの日用雑器が主であったが、桃山時代には、茶の湯の流行の中で、花入や水指などの名品を数多く生み出し、国内でも代表的茶陶産地となった。昭和の初め頃には、桃山時代のいわゆる古備前の作調に芸術的作風が盛んになり、その後それが備前焼の主流となった。今日の備前焼は、土そのものの味わいと窯変による効果を生かす伝統的な技法をもとに、現代の感覚に沿った制作が活発に行われ、独特の芸術性を備えた陶芸技法として高く評価されている。 |
| アクセス方法 |  |
| 公開状況   |  |
| 設備     |  トイレ  障害者用トイレ  駐車場  障害者用駐車場    |
| 備考     | 【保持者】伊勢崎惇(淳)   |